

通 信



日 仏 東 洋 学 会

日仏東洋学会

会 長：福井 文雅
名誉会長：ANSART, Olivier · 山本 達郎 · WASSERMAN, Michel
顧 問：秋山 光和 · 江上 波夫 · 藤枝 晃 · 市古 貞次
彌永 昌吉
評 議 員：竺沙 雅章 · DURT, Hubert · 福井 文雅 · 濱田 正美
羽田 正 · 池田 温 · 石沢 良昭 · 石井 米雄
彌永 信美 · 狩野 直禎 · 加藤 純章 · 興膳 宏
桑山 正進 · 京戸 慈光 · 前田 繁樹 · 松原 秀一
御牧 克己 · 森安 孝夫 · 明神 洋 · 中谷 英明
大谷 暢順 · 齋藤 希史 · 坂出 祥伸 · 高田 時雄
田中 文雄 · 坪井 善明 · 八木 徹 · 山田 利明
代表幹事：興膳 宏
幹 事：濱田 正美 · 石沢 良昭 · 前田 繁樹 · 御牧 克己
明神 洋 · 中谷 英明 · 齋藤 希史 · 高田 時雄
八木 徹
監 事：加藤 純章 · 岡本 さえ
会計幹事：羽田 正
推薦委員会：福井 文雅 · 池田 温 · 加藤 純章 · 興膳 宏
御牧 克己 · 山本 達郎

本 部

〒162 東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学部 福井文雅研究室

事 務 局

〒608 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部 興膳 宏研究室
TEL: 075 753 2808

編集担当

〒112 東京都文京区白山5-28-20
東洋大学文学部中国哲学文学科
山田利明研究室

入会申し込み・会費納入(年会費3,000円)

〒113 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学東洋文化研究所
羽田 正

表紙 題字 元の趙孟頫の六体千字文から
高田時雄氏集字
カット イラン陶器模様(13世紀)から
桑山正進氏描画

日仏東洋学会会則

- 第1条 本会を日仏東洋学会と称する。
- 第2条 本会の目的は東洋学に携わる日仏両国の研究者の間に、交流と親睦を図るものとする。
- 第3条 本会の目的を実現するため次のような方法をとる。
(1) 講演会の開催
(2) 日仏学者の共同の研究及びその結果の発表
(3) 両国間の学者の交流の促進
(4) 仏人学者の来日の機会などに親睦のための集会を開催する
(5) 日仏協力計画遂行のために学術研究グループを組織する
- 第4条 本会の本部は日仏会館におき、事務局は代表幹事の所属する機関内におく。
- 第5条 本会会員は本会の目的に賛同し、別に定める会費をおさめるものとする。会員は正会員および賛助会員とする。
- 第6条 正会員および賛助会員の会費額は総会で決定される。
- 第7条 本会は評議員会によって運営され、評議員は会員総会により選出される。評議員の任期は2年とするが、再任を妨げない。
- 第8条 評議員会はそのうちから次の役員を選ぶ。これらの役員の任期は2年とするが、再任を妨げない。
会長 1名 代表幹事 1名 幹事 若干名 会計幹事 1名
監事 2名
日仏会館フランス学長は、本会の名誉会長に推薦される。会員総会はその他にも若干名の名誉会長・顧問を推薦することができる。
- 第9条 会長は会を代表し、総会の議長となる。代表幹事は幹事と共に会長を補佐して会の事務を司る。会計幹事は会の財政を運営する。監事は会の会計を監査する。
- 第10条 年に一回総会を開く。総会では評議員会の報告を聞き、会の重要問題を審議する。会員は委任状又は通信によって決議に参加することができる。
- 第11条 本会の会計年度は3月1日より2月末日までとする。
- 第12条 この会則は総会の決議により変更することができる。
- 第13条 以上の1条から12条までの規定は、1989年4月1日から発効するものとする。

STATUT DE LA SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DES ETUDES ORIENTALES

- Art.1 Il est formé une association qui prend le nom de Société franco-japonaise des Etudes Orientales.
- Art.2 L'objet de la Société est de promouvoir les échanges scientifiques et amicaux entre spécialistes français et japonais des Etudes Orientales.
- Art.3 Les moyens employés pour réaliser l'objet de la Société sont entre autres les suivants:
1 - Organisation de conférences,
2 - Etudes et recherches entreprises en commun par des scientifiques français et japonais et publication de leurs résultats,
3 - Développement des échanges de scientifiques entre les deux pays,
4 - Organisation de réunions amicales entre scientifiques français et japonais, notamment à l'occasion des visites des scientifiques français au Japon,
5 - Organisation de groupes de travail spécialisés, pour la poursuite de projets coopératifs franco-japonais.
- Art.4 Le siège de la Société est établi dans la Maison franco-japonaise et le bureau à l'établissement auquel appartient le secrétaire général.
- Art.5 Sont membres de la Société toutes personnes qui approuvent le but de la Société et acquittent la cotisation. La Société comprend des membres ordinaires et des donateurs.
- Art.6 La cotisation pour des membres ordinaires et des membres donateurs est décidée par l'Assemblée Générale.
- Art.7 La Société est administrée par le Conseil d'Administration. Les membres du Conseil d'Administration sont élus par l'Assemblée Générale des membres. Ils sont élus pour deux ans et sont rééligibles.
- Art.8 Le Conseil d'Administration élit dans son sein:
- 1 Président - 1 Secrétaire Général
- Plusieurs secrétaire - 1 Trésorier - 2 Auditours.
Les administrateurs ci-dessus sont élus pour deux ans et sont rééligibles. Le Directeur français à la Maison franco-japonaise est statutairement président d'honneur. En outre, l'Assemblée Générale peut élire un ou plusieurs présidents d'honneur et plusieurs conseillers d'honneur.
- Art.9 Le président représente la Société et préside l'Assemblée Générale. Le secrétaire général assiste le Président pour assurer avec les secrétaires les activités de la Société. Le trésorier gère les finances de la Société. Les auditeurs surveillent la comptabilité.
- Art.10 L'Assemblée Générale se réunit une fois par an pour entendre le compte-rendu du Conseil d'Administration et délibérer sur les problèmes importants. Les membres de la Société peuvent voter par procuration ou par correspondance.
- Art.11 L'année fiscale de la Société commence le premier mars et prend fin le dernier jour du mois de février.
- Art.12 Les statuts peuvent être modifiés par décision de l'Assemblée Générale.
- Art.13 Les dispositions statutaires prévues dans les articles 1 à 12 ci-dessus entreront en vigueur le premier avril 1989.

CIRCULAIRE DE LA SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DES ETUDES ORIENTALES

n° 19 1995

目 次

兵庫県南部地震お見舞い 日仏東洋学会会長・福井文雅	1
石井米雄教授第五回福岡アジア文化賞受賞	1

学界動向

フランス国立科学研究所東アジア科学史技術史研究班の活動 マセ・美枝子	2
1994年フランス国立高等研究院開講講座	19
学術会議だより	29

消 息	31
-----	----

報 告	31
-----	----

編集後記	33
------	----



兵庫県南部地震

お見舞い

日仏東洋学会会長 福井文雅

1月17日早朝、兵庫県南部を震源とする地震によって阪神地区に甚大な被害が出ました。本学会会員でこの地域に居住される方も少なくありません。心よりお見舞い申し上げます。

本号がお手もとに届く頃には、すでに復興の途上にあるものと確信しておりますが、今は皆様の御無事を祈念申し上げます。

(1995年1月23日記)

お詫び

本誌は年間二回発行されることになっておりますが、編集担当が交替したことと、それともなう錯誤のために、19号の発行が大幅に遅れました。これは本来昨年中に発行すべきもので、ちょうど半期遅れたこととなります。不手際をお詫び申し上げますとともに、御理解を賜わりたくお願い申し上げます。

石井米雄教授

第5回(1994年)福岡アジア文化賞
(学術研究賞・国内部門)受賞

本学会会員石井米雄氏(上智大学アジア文化研究所所長)は、タイを中心とする東南アジアの歴史・宗教・社会の学際的研究と、特にタイの上座部仏教の研究で優れた成果を挙げられたことによって、福岡市と「よかトピア」記念国際財団の主催による「福岡アジア文化賞」を受賞された。

石井教授は、タイ仏教の社会学的研究を中心に、多くの研究業績を公表されてきた。中でも『上座部仏教の政治社会学-国教の構造』(1975年)は英語・マレーシア語に翻訳され、国際的に高く評価されている。京都大学東南アジア研究センター所長を務められた後、1990年上智大学に移られ1993年から現職。(福岡アジア文化賞:1990年に福岡市によって創設されたアジアの相互理解を目的とする学術・文化賞。大賞・学術研究賞(国内・国際部門)・芸術文化賞の三種がある。第1回以来、巴金(中国)、黒沢明、ジョセフ・ニーダム(英国)、ドナルド・キーン(米国)、中根千枝などの著名な研究者や文化人が受賞。)

フランス国立科学研究所東アジア科学史技術史研究班の活動 マセ (Macé)美枝子

一・フランス国立科学研究所所属東アジア科学史・技術史研究班の活動

本研究班は、1984年秋にジャック・ジェルネ教授により創設され、創設当時のメンバーは約十五人であったが、1994年春現在は25名を数えている。以下に、構成メンバー、班全体の活動、指導者の先生方の研究姿勢とご業績を、順をおって紹介したい。

(1) 構成メンバーは、分野別に分けると次のようになる。

1. 天文学 M.カリノウスキー KALINOWSKI Marc 1993年8月までフランス極東学院、
1993年10月よりフランス高等研究院第五部門(宗教)
C.デイエニ
2. 数学 A.K.ヴォルコフVOLKOV Alexei 奨学金給付研修生
K. シェムラ CHEMLA Karine フランス国立科学研究所
C.ジャマイ JAMI Catherine フランス国立科学研究所
C.デイエニ DIENY Colette
W.ドウヴィエクラヴィック de WIECLAWIK Wladislaw パリ第二大学名誉教授
J.ブリュニエ BRUNIER Joel 高等学校教諭
A.堀内 HORIUCHI Annick Ecole Normale Supérieure
J.-C. マルツロフ MARTZLOFF Jean-Claude フランス国立科学研究所
3. 植物学 G.メテイエ METAILIE Georges フランス国立科学研究所
4. 食物学 F.サバン SABBAN Françoise フランス高等研究院第六部門
5. 医学 F.オブランジェ OBRINGER Frédéric 薬剤師、奨学金給付研修生
C.デスプー DESPEUX Catherine フランス国立東洋言語文化研究所
P.トウリアドゥ TRIADOU Patrick 医師
M.マセ MACE Mieko パリ第六大学、
京都府立医科大学招へい 外国人研究者(1993年10月1日-
1994年9月30日)、国際日本文化研究センター共同研究員
(1994年4月1日より)
F.メイユール MEYER Fernand フランス高等研究院第四部門
E.ロシャドゥ ラ ヴァレー ROCHAT de LA VALLEE Elisabeth-
利氏学社 (Institut Ricci)

6. 言語学 V.アレトン ALLETON Viviane フランス高等研究院第六部門
7. 哲学 A.アロー ARRAULT Alainパリ第七大学博士過程
J.ガヴォー GAVAUD Jacquelineフランス国立科学研究所
8. 建築 Ch.ゴードイエ GAUDIER Christophe 建築家
9. 水利学 Ch.ラムルー LAMOUROUX Christianフランス極東学院
10. 印刷 J.-P.ドゥレージュ DREGÉ Jean-Pierre フランス高等研究院第四部門

(2) 班の全体活動

原則として月一回の例会をもち、班員による報告またはパリに短期滞在中の海外の科学史、技術史の専門家による報告がある。国外研究者は、主にイギリスのニーダム研究所、ドイツ、中国、イタリア、オランダからの研究者が多い。これまでに、私たちの研究班の例会に著名な研究者を多数お迎えすることができたが、この点についての資料が手許になく、詳細な報告ができないのは、たいへん残念である。日本からは、1989年に坂出祥伸関西大学教授、1991年に吉田忠東北大学教授、1992年に橋本敬造関西大学教授をお迎えすることができた。今後も、ますます日本の専門家の先生方との交流を深めていきたいと班員全員が希望している。

よく指摘されることであるが、宋を一つの大きな区切りとして中国社会全体が大きく変貌していることから、宋学、宋時代の社会、思想変革を背景とした科学、技術面における新しい展開の実際とその国内、国外へのインパクトが共通の研究テーマである。その一環として、広く宋代の「筆記」の中に現われる科学的思考を探ることを班員全員の研究課題としているが、C.デイエニ、W.ドゥヴィエクラヴィック、J.ブリュニエ、J.-C.マルツロフの四名がすでに沈括の「夢溪筆談」の部分訳を試みていることから、先ず邦文の全訳(1978-1981)の例に倣って、この本の仏訳による全訳を班員全員の参加によって行い、それを足がかりとして「筆記」ぜんたいの研究へと研究対象を広げていくことになっている。

また、1992年より、数学研究グループのメンバーのうち、A.ヴォルコフ、C.ジャミイ、J.ブリュニエ、A.堀内は、秦九韶(1202-1261?)の「数書九章」(1247)の部分訳を準備している。中国の数学の黄金時代といえる宋代の数学に認められる伝統の継承と新しい展開を探ろうとするものである。

医学研究グループは、1987年から時代は遡るが「諸病源候論」を中心に唐前期までの医学書に現われる咳嗽の研究を始めた。その病因論、発病のプロセスを追うことに努めるとともに、基本概念に関する六朝時代下の新しい動きを理解することにも注意を払った。1994年春現在、「隋、唐前期の中国における病一咳嗽の場合」と題する原稿がほぼ完成しており、年内に刊行の予定である。現在、医学研究班は宋、元時代に生まれた創造的理論の研究に取り組み始めたが、細かい共同研究プロジェクトはまだ決定していない。

更に、班全体の活動の一つとして、1992年に「ジャック・ジェルネ教授退官記念論文集」(執筆者 M.カリノウスキー、C.ジャミイ、C.デイエニ、K.シエムラ、A.堀内、J.ブリュニエ、M.マセ)が企画され、現在二稿目が終わり、年内に刊行の予定である。

二・創設者 Professeur Jacques GERNET ジャック・ジェルネ教授は、1976年より1992年までコレージュ・ド・フランス中国史・思想史講座正教授を務められた。

(1) 業績(1949年から1994年まで)。本リストは、ジャック・ジェルネ教授ご自身が作成された業績リストをH.ドウラエ氏が整理されたものを、翻訳させていただいた。尚、この原文リストは、『中国研究』1994年9月号ジャック・ジェルネ教授退官記念特集号に掲載されている。

著書

1. 『神会禅師(668-760)語録』

初版ハノイ、フランス極東学院、1949年、10+126p.
再版、パリ、同上。

Entretiens du maître de dhyâna Chen-houei (668-760)

Hanoi, 1949, Paris, 1977.

2. 『五世紀から十世紀の中国社会における仏教の経済的側面』

初版サイゴン、フランス極東学院、1956年、16+332p.、図版10。
再版、パリ、1977年。

中国語訳1987年。

Les aspects économiques du bouddhisme dans la société chinoise du Ve au Xe siècle.

Saigon, 1956.

3. 『モンゴル襲来前夜の中国における日常生活』

初版パリ、アシェット、1959年、288p.
再版パリ、同上、1978年、1990年
英訳、1962年、1977年
ハンガリー語訳、1980年
中国語訳、1982年
イタリア語訳、1983年
邦訳、平凡社、1990年、318p. (題は『中国近世百万都市、モンゴル襲来前夜の杭州』)

La vie quotidienne en Chine à la veille de l'invasion mongole

Paris, 1959.

4. 『中国の古代一起源から始皇帝まで』

初版、パリ、PUF (Que sais-je?)、1964年
第五版 (改訂版) 印刷中
邦訳クセジュ、白水社、ポーランド語訳、英訳、イタリア語訳あり

La Chine ancienne des origines à l'empire

Paris, 1964.

5. 『フランス国立図書館の中国語文献の目録、ペリオ敦煌文書』 (共著)

初版、パリ、シンガーポリニャック基金、1970年、408p.

Catalogue des manuscrits chinois de la Bibliothèque nationale, fonds

Pelliot de Touen-houang, t. 1,
Paris, 1970.

6. 「中国の世界」 *Le monde chinois*

初版、パリ、アルマン・コラン、1972年、766p. 図版36

改訂増補第二版、同上、1980年、700p.

改訂増補第三版、同上、1990年、700p.

イタリア語訳、1978年、758p.

ドイツ語訳、1979年、714p.

英訳、1982年、再版準備中

ルーマニア語訳、1985年

ハンガール語訳、1985年

スペイン語訳、1991年

中国語訳印刷中

Le monde chinois

Paris, 1972, 1990.

7. 「中国とキリスト教—行動と反応」

初版、パリ、ガリマール社、1982、342p.

改訂増補版、「中国とキリスト教—最初の衝突—」叢パリ、ガリマール社、
1991年、3+342p.

ドイツ語訳、1984年

イタリア語訳、1984年

英訳、1985年

スペイン語訳、1989年

中国語訳、1991年

邦訳を準備中

Chine et christianisme, action et réaction,

Paris, 1982, 1992.

8. 「唐甄 (1630-1704)、いまだ無名の賢者の著述」 ジャック・ジェルネ訳注

初版、パリ、ガリマール社、1991年、346p.

Tang Zhen, Ecrits d'un sage encore inconnu.

Paris, 1991.

9. 「中国の知性—その社会的、思想的側面—」

ガリリマール、歴史叢書、パリ、1994年、398p.

L'intelligence de la Chine-Le social et le mental

Paris, 1994.

論文

1. 「神会禅師の伝記」

【アジア学会誌】所収、1951年

"Biographie du maître de dhyàna Chen-houei", *Journal Asiatique*, 1951

2. 「上代中国における行動と生活様式」

【アナル】所収、1951年

"Comportements et genres de vie en Chine archaïque", *Annales*, 1952.

3. 「神会禅師語録補遺」
サイゴン、「フランス極東学院紀要44」所収、1954年
"Compléments aux entretiens de Chen-houei", *B.E.F.E.O.*, 1954
4. 「滄山の靈祐語録」
サイゴン、「フランス極東学院紀要45」所収、1955年
"Les entretiens du maître Ling-yeou du Kouei-chan", *B.E.F.E.O.*, 1955.
5. 「中国における経済と人間の活動」
【クリテイック】103号所収、1955年
"Economie et actions humaines en Chine", *Critique*, 1955.
6. 「宋時代の都市における商人と職人」
パリ、「Cernushi博物館」所収、1956年
"Marchands et artisans dans les villes de l'époque des Song", *Aspects de la Chine des Song*, 1956
7. 「敦煌契約による中国における販売」
【通報】45、4-5所収、1957年
"La vente en Chine d'après les contrats e Touen-houang, IXe-Xe siècles", *T'oung Pao*, 1957.
8. 「中国語による色彩表現」
パリ、「フランス国立高等研究院第6部門図書館報」所収1957年
"L'expression de la couleur en chinois", *Problèmes de la couleur*, 1957
9. 「唐時代における経済と社会」
P. ドウミエヴィル編、「中国の様相1」所収、パリ、ギメ博物館、
1960年
"Economie et société à l'époque des T'ang", *Aspects de la Chine I*, 1960.
10. 「五世紀から十世紀までの中国人仏教徒の焼死自殺について」
パリ、「フランス中国研究所論文集2」所収、1960年
"Les suicides par le feu chez les bouddhistes chinois du Ve au Xe siècle", *Mélanges de l'Institut des hautes études chinoises*, 1960.
11. 「中国の鉄器時代」
【フランス人類学雑誌、人間】(L'homme), 1所収、1960年
"L'âge du fer en Chine", *L'homme*, 1960.
12. 「極東における歴史」
【史学雑誌(La revue historique)】所収、1962年
"L'histoire en Extrême-Orient", *Revue historique*, 1962.
13. 「中国における文字の心理的側面と機能」
M. コーエン編「民族の文字と心理」所収、パリ、アルマン・コラン、
1963年。
"Aspects et fonctions psychologiques de l'écriture en Chine", *Ecriture et psychologie des peuples*, 1963.
- 14 J. -P. ヴェルナンとの共著「三世紀から五世紀にかけての中国とギリシャにおける思想 (idée)の展開」、【ギヨーム・ピュデ協会会報】4輯3号所収、パリ、1964.

- "L'évolution des idées en Chine et en Grèce du Ve au IIIe siècle, *Bulletin de l'Association Guillaume Budé*, 1964.
15. 「敦煌旅行のためのらくだの調達」
 [P. ドウミエヴィル先生退官記念論文集] 所収、パリ、1966年。
- "Locations of chameaux pour les voyages à Touen-houang", *Mélanges de sinologie offerts à Paul Demiéville*, 1966.
16. 「中国における戦車についての覚書」
 J. -P. ヴェルナン編『古代ギリシャにおける戦争の問題』所収、ハーグ、ムトン、1969年。
- "Note sur le char en Chine", *Problème de la guerre en Grèce ancienne*, 1969.
17. 「イスラム文化絶頂期における中国の都市についての覚書」
 A.H. Hourani, S.M. Stern編『イスラム都市』所収、オックスフォード、1969年。
- "Notes sur les villes chinoises à l'apogée islamique", *The Islamic city*, 1969.
18. 「仏教」、「1940年までの中国」
 バリ、*Encyclopaedia universalis* (世界百科事典) 所収、1970年。
- Articles "bouddhisme" et "Chine" (jusqu'en 1940), *Encyclopaedia Universalis*, 1970.
19. 「第二の中国ルネッサンス」
 「言語、技術、自然、そして社会、A.G.オドワリクールに敬意を表して」
 所収、パリ、1970年。
- "La seconde "renaissance" chinoise", *Langues, techniques, nature et société, hommage à A.G. Haudricourt*, 1971.
20. 「十七・十八世紀における中国とヨーロッパとの交渉について」、
 「アクタ・アジアティカ」所収、東京、1972年、
 同名タイトル邦訳は、「東方学」、第四十四輯所収。
- "A propos des contacts entre le Chine et l'Europe aux XVIIe et XVIIIe siècles, *Acta asiatica*, 1972.
21. 「1600年頃の中国におけるマテオ・リッチの改宗政策と知的営為の展開」
 「宗教人文科学総覧 (Archives de sciences sociales des religions)」
 」、36所収、パリ、1973年、中国語訳あり。
- "La politique de conversion de Matteo Ricci et l'évolution de la vie intellectuelle en Chine aux environs de 1600", *Archives des sciences sociales des religions*, 1973
22. 「中国の科学と占の術」
 「東方学」、第四十五輯所収、1973年。
23. 「鳩摩羅什」、「慧遠」、「玄奘」、「黄巢」、「臨濟」
 バリ、*Encyclopaedia universalis* (世界百科事典) 所収、1974年。
 articles "Kumarajiva", "Houei-yuan", "Hiuan-tsing", "Houang Tcha'ao" et Li Tche", *Encyclopaedia Universalis, Thesaurus*, 1974.

24. 「小さな隔たりと大きな隔たり」
J. P. ヴェルナン編「占と合理性」所収、パリ、ソユユ、1974年。
"Petits écarts et grands écarts", *Divination et rationalité*, 1974.
25. 「コレージュ・ド・フランス中国社会学・思想史講座就任開講講演」
パリ、1976年。
"Leçon inaugurale de la chaire d'histoire sociale et intellectuelle de la Chine", *Collège de France*, 1976
26. 「1976年度の講座内容報告」
【コレージュ・ド・フランス年報】所収、パリ、1976年。
"Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France*, 1976.
27. 「十六世紀末から十七世紀半ばの中国哲学とキリスト教」
【シャンティイ 国際中国学会議事録】、所収、レ・ベル・レートウル、
パリ、1976年。
"Philosophie chinoise et christianisme de la fin du XVIe siècle au milieu du XVIIe", *Actes du Colloque international de sinologie de Chantilly*, 1976.
28. 「1977年度の講座内容報告」
【コレージュ・ド・フランス年報】所収、パリ、1977年。
"Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France*, 1977.
29. 「Y. ドウ・トマ・ドゥ・ボシエール著「アントワーヌ・トマー、十七世紀の中国宮廷に仕えたベルギー人高等官吏」への序」、
【アントワーヌ・トマー、十七世紀の中国宮廷に仕えたベルギー人高等官吏】所収、
パリ、レ・ベル・レートウル、1977年。
"Préface à Y. de Thomas de Bossière, *Un Belge mandarin à la cour de Chine au XVIIe siècle: Antoine Thomas 1644-1709*", 1977
30. 「古代中国の法律における責任の概念について」
【中国の法律 (Il diritto in Cina)】所収、フィレンツェ、1978年。
"A propos de la notion de responsabilité dans l'ancien droit chinois", *Il diritto in Cina*, 1978.
31. 「1977-1978年度の講座内容報告」
【コレージュ・ド・フランス年報】所収、パリ、1978年。
"Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France 1977-1978*, 1978.
32. 「1584年に初めて中国語で行われた教理教育のいくつかの異本について」
【Studia Sino-Mongolica (中国-モンゴル研究)】所収、
Wiesbaden, 1979。
"Sur les différentes versions du premier catéchisme en chinois de 1584", *Studia Sino-Mongolica, Festschrift für Herbert Franke*, 1979.
33. 「P. ドゥミエヴィル(1894-1979)」
【通報】LXV 1-3, 1979年。
"Paul Demiéville 1894-1979", *T'oung Pao*, 1979.
34. 「海の周辺 -エテイアンプルの神話-」パリ、デイデイエ・エルデイション、
1979、pp.1-9.

- "Prés de la mer - mythe d'Etiemble", Paris.
35. 「十七世紀におけるキリスト教的な世界観と中国人の世界観」
 【Diogène】105号所収、パリ、1979年。
 英訳は「Chinese Science」(1980)に所収。
- "Visions chrétiennes et chinoises du monde au XVIIe siècle, *Diogène*, 1979.
36. 「敦煌におけるある納税延期の申請について」
 【敦煌研究】所収、ジュネーブ、パリ、1979年。
- "Une demande de report d'impôt à Dunhuang", *Contributions aux études sur Touen-houang*, 1979.
37. 「1978-1979年度の講座内容報告」
 【コレージュ・ド・フランス年報】所収、パリ、1979年。
- "Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France 1978-1979*, 1979.
38. 「J. ドウエルニュー、D. レスリーの『十八世紀イエズス会士通信を通してみる中国のユダヤ人』への序」、
 「十八世紀イエズス会士通信を通してみる中国のユダヤ人」所収、
 パリ、レ・ベル・レートウル、1980年。
- "Préface à Joseph Dehergne et Donald Leslie, *Juifs de Chine: à travers la correspondance des jésuites du XVIIIe siècle*", 1980
39. 「ヤロスラフ・プリュセック (Jaroslav Prusek) (1906-1980)」
 【通報】LXVI 4-5所収、1980年。
- "Jaroslav Prusek, 1906-1980", *T'oung Pao*, 1980.
40. 「中国における帝国の概念」
 【帝国の概念】所収、パリ、PUF、1980年。
- "Le concept d'empire en Chine", *Le concept d'empire*, 1980.
40. 「1979-1980年度の講座内容報告」
 【コレージュ・ド・フランス年報】所収、パリ、1980年。
- "Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France 1979-1980*, 1980.
42. 「十七世紀の中国の歴史について」
 【アナール】五-六月号所収、パリ、1981年。
- "Sur l'histoire de la Chine au XVIIe siècle", *Annales*, 1981.
43. 「瞑想のテクニック、宗教と哲学、新儒教の静坐について」
 【フランス極東学院紀要】69号所収、パリ、1981年。
- "Techniques de recueillement, religion et philosophie: à propos du *jingzuo* néo-confucéen", *B.E.F.E.O.*, 1981.
44. 「ロベール・デ・ロトウル (1891-1980)」
 【通報】LXVII 1-2所収、1981年。
- "Robert des Rotours 1891-1980", *T'oung Pao*, 1981.
45. 「1980-1981年度の講座内容報告」
 【コレージュ・ド・フランス年報】所収、パリ、1981年。
- "Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France*, 1980-

1981, 1981

46. 「人間か無用の書類か、唐甄（1630-1704）の政治観の概略」
【東アジアの国家と法律】所収、Wiesbaden, 1981年。
"L'homme ou la paperasse: aperçu sur les conceptions politiques de T'ang Chen (1630-1704)", *State and Law in East Asia, Festschrift Karl Büniger*, 1981.
47. 「1981-1982年度の講座内容報告」
【コレージュ・ド・フランス年報】所収、パリ、1982年。
"Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France, 1981-1982.*, 1982
48. 「明末の中国社会」
【西洋と中国の出会い：マテオ・リッチ】所収、パリ、1983年。
"La société chinoise à la fin des Ming", *Une rencontre de l'Occident et de la Chine: Mateo Ricci*, 1983
49. 「1982-1983年度の講座内容報告」
【コレージュ・ド・フランス年報】所収、パリ、1983年。
"Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France, 1982-1983*, 1983.
50. 「マテオ・リッチの時代の中国の知識人階級」(イタリア語)
【リッチ研究国際会議議事報告】所収、Macerata, 1984年。
"Gli ambienti intellettuali cinese all'epoca del Ricci", *Atti del Convegno internazionale di studi ricciani*, 1984
51. 「アンリ・マスペロの生涯と著作」
パリ、シンガー・ポリニャク基金、1984年。
"La vie et l'oeuvre d'Henri Maspéro", *Hommage à Henri Maspéro*, 1984.
52. 「1983-1984年度の講座内容報告」、
【コレージュ・ド・フランス年報】所収、パリ、1984年
"Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France, 1983-1984*, 1984
53. 「近代中国、伝統的中国」
【中国研究】4-1所収、パリ、1985年。
"Chine moderne, Chine traditionnelle", *Etudes chinoise IV*, 1985.
54. 「S. シュラム【中国における国家権力の範囲】への序」、【中国における国家権力の範囲】所収、
S.O.A.S. ロンドン、香港、1985年。
"Introduction à *The Scope of the State Power in China*", 1985.
55. 「敦煌碾戸和梁戸」
【敦煌訳叢】所収、蘭州、1985年。
56. 「裸で埋葬されるということ」
【Le journal des Savants】所収、パリ、1985年。
"Etre enterré nu", *Journal des savants*, 1985
57. 「1984-1985年度の講座内容報告」
【コレージュ・ド・フランス年報】所収、パリ、1985年。

- "Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France*, 1984-1985, 1985
58. 「P.ドゥミエヴィルの生涯と著作」
 【フランス学士院紀要七—十月】所収、パリ、1986年。
- "Notice sur la vie et les travaux de Paul Demiéville", *Comptes rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles-lettres*, 1986.
59. 「十六、十七世紀の中国におけるクラブ、結社、協会」
 【フランス学士院紀要十一—十二月】所収、パリ、1986年。
- "Clubs, cénacles et sociétés dans la Chine des XVIe et XVIIe siècles", *Comptes rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles-lettres*, 1986.
60. 「1985—1986年度の講座内容報告」
 【コレージュ・ド・フランス年報】所収、パリ、1986年。
- "Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France*, 1985-1986, 1986
61. 「蛮族の徳性」
 【天空から郷土へ、庭から家庭へ、ルシアン・ベルノ先生退官記念論文集】所収、パリ、EHESS, 1987年。
- "De la vertu des barbares", *De la voute céleste au terroir, du jardin au foyer, mélanges offerts à Lucien Bernot*, 1987.
62. 「中国における歴史と農業」
 【Journal of the Ec. and Soc. History of the Orient】XXX所収、1987年。
- "Histoire et agriculture en Chine", *Journal of the Ec. and Soc. History of the Orient*, 1987.
63. 「中国人における身体と精神について」
 【Poikilia, J. - P. ヴェルナン先生退官記念論文集】所収、パリ、EHESS, 1987年。
- "Sur le corps et l'esprit des chinois", *Poikilia, études offertes à Jean-Pierre Vernant*, 1987
64. 「中国と反宗教改革のヨーロッパ間の最初の交渉における他者像」
 【Atti del IV convegno internazionale di studi columbiani】所収、Genova, 1987年。
- "La vision des autres dans les premiers contacts entre la Chine et l'Europe de la Contre-réforme", *Atti del IV Convegno internazionale di studi olombiani*, 1987.
65. 「十一世紀から十九世紀までの中国行政機関の組織、原理と実際」
 【国家に仕える(Servir l'Etat)】所収、パリ、EHESS, 1987年。
- "Organisation, principes et pratique de l'admiunistration chinoise (XIe-XIXe siècles)", *Servir l'Etat*, 1987.
66. 「1986—1987年度の講座内容報告」
 【コレージュ・ド・フランス年報】所収、パリ、1987年。
- "Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France*, 1986-

- 1987, 1987
67. 「S. シュラムの『中国における国家権力の基盤と限界』への序」、『中国における国家権力の基盤と限界』所収、
S.O.A.S. ロンドン、香港、1987年、仏文は、日仏会館報、東京、
1988年。
- "Introduction à *Foundation and limits of the State Power in China*", 1987.
68. 「他者のイメージ、中国の歴史と文化人類学」
【Corps écrit XXVII】所収、パリ、PUF, 1988年。
- "Image de l'autre, histoire et anthropologie chinoise", *Corps écrit*, 1988.
69. 「J. -C. マルツロフ『中国数学史』への序」、『中国数学史』
パリ、マッソン、1988年。
- "Préface à Jean-Claude Martzloff, *Histoire des mathématiques chinoises*
", Paris, 1988.
70. 「十七世紀の中国におけるキリスト教の順化の問題」
【カトリック教とアジア社会】所収、パリ、東京、ラルマタン、上智
大学、1988年。
- "Problèmes d'acclimatation du christianisme dans la Chine du XVIIe
siècle", *Catholicisme et sociétés asiatiques*, 1988
71. 「1987-1988年度の講座内容報告」
【コレージュ・ド・フランス年報】所収、パリ、1988年。
- "Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France*, 1987-
1988, 1988
72. 「科学と合理性-中国の具体例の獨創性」
【科学史雑誌LXII4】所収、パリ、1989年。
- "Sciences et rationalité: l'originalité des données chinoises", *Revue
d'histoire des sciences*, 1989.
73. 「中国思想概論」
【哲学百科事典】所収、パリ、PUF、1989年。
- "Introduction à la pensée chinoise", *Encyclopédie philosophique
universelle, l'univers philosophique*, 1989.
74. 「1988-1989年度の講座内容報告」
【コレージュ・ド・フランス年報】所収、パリ、1989年。
- "Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France*, 1988-
1989, 1989
75. 「中国社会に及ぼした儒教的伝統の影響について」
【思想792】所収、東京、1990年、
仏文は、【儒教とアジア社会】所収、東京、パリ、ラルマタン、上智大
学、1991年。
76. 「エリック・ズルケールの『仏教・キリスト教と中国社会』の紹介」
パリ、ジュリアル、1990年。
- "Présentation" d'Erik Zürcher, *Bouddhisme, christianisme et société
chinoise*, 1990.
77. 「C. ジャミイ『三角法の速い計算法と正確な円比率』への序」、『三角法の

- 速い計算法と正確な円比率」、
 パリ、コレージュ・ド・フランス中国学研究所、1990年。
- "Préface à Catherine Jami, *Les Méthodes rapides pour la trigonométrie et rapport précis du cercle (1774)*", 1990.
78. 「漢時代の法律についての王夫之の注解」
 「晋・漢時代の中国における思想と法律」所収、ライデン、ブリル、
 1990年。
- "Quelques notes de Wang Fuzhi sur le droit de l'époque des Han", *Thought and law in Qin and Han China*, 1990.
79. 「1989-1990年度の講座内容報告」
 「コレージュ・ド・フランス年報」所収、パリ、1990年。
- "Compte rendu d'enseignement", *Annuaire du Collège de France, 1989-1990*, 1990
80. 「歴史をどう読むかー王夫之の思想についての覚書ー」
 日仏文化54所収、東京、日仏会館、1991年。
- "Comment il faut lire l'histoire: une note sur les idées de Wang Fuzhi (1619-1692)", *Nichifutsu bunka*, 1991
81. 「王夫之の英知ー十七世紀の中国の思想家ー」
 「世界の英知」所収、パリ、Institut collégiale européen、1991年。
- "La sagesse chez Wang Fou-tche, philosophe chinois du 17e siècle", *Les sagesse du monde*, 1991.
82. 「同化の努力ー中国における最初のキリスト教徒ー」(ドイツ語)
 「Neue Zürcher Zeitung, Literatur und Kunst」No・213所収、
 1991年。
- "Assimilierungsversuche: die ersten Christen in China", *Neue Zürcher Zeitung, Literatur und Kunst*, 1991.
83. 「P. H. デュラン「文士階級と権力ー中国帝国における文学裁判」への序」、
 「文士階級と権力ー中国帝国における文学裁判」所収、
 パリ、フランス極東学院、1992年。
- "Préface à Pierre-Henri Durant, *Lettrés et pouvoirs: un procès littéraire dans la Chine impériale*", 1992
84. 「中国社会に及ぼした儒教的伝統の影響について」
 溝口Y・L.ヴァンデルメルシュ編、「儒教とアジア社会」東京、パリ、ラルマタン、
 上智大学、1991。
- A propos des influences de la tradition confucéenne sur la société chinoise", *Confucianisme et sociétés asiatiques*, 1991, Paris-Tôkyô.
85. 「ハロ・フォン・セングー「策略ー生き、生き残るための三千年の計略ー」への序、」
 「策略ー生き、生き残るための三千年の計略ー」所収、
 パリ、Inter éditions、1992年。
- "Préface à Harro von Senger, *Stratagèmes: trois millénaires de ruses pour vivre et survivre*", 1992
86. 「戴震」、「王夫之」、「顔元」、「章学誠」、「張載」
 「哲学百科事典」所収、パリ、PUF、1992年。

Articles "Dai Zhen", Wang Fuzhi", "Yan Yuan", "Zhang Xuecheng", "Zhang Zai", *Encyclopédie philosophique, Les oeuvres philosophiques, Dictionnaires II*, 1992.

87. 「『中国におけるヨーロッパ』への序一十七、八世紀における科学的、宗教的、文化的相互作用一」
コレージュ・ド・フランス附属中国研究所出版、34巻所収、パリ、1993年

"Préface à *L'Europe en Chine*", *Mémoires de l'Institut des Hautes Etudes chinoises du Collège de France*.

88. 「時空間一中国とヨーロッパの出会いにおける科学と宗教」
同上 「中国におけるヨーロッパ」所収、パリ、1993年

"Temps et espace- sciences et religion dans la rencontre de la Chine et de l'Europe", *L'Europe en Chine*, 1993.

89. 「変化と不動性」
『人文科学研究議事録』百号所収、1993年12月

"Changement et immobilité", 1993.

三・ジャック・ジェルネ教授の中国研究の大きなテーマ

1.P.ドゥミエヴィルの強い影響を受けた禅仏教の研究。
仏教の経済的側面。

2.フランス国立図書館架蔵敦煌文書の研究。
特に経済、対外交渉の問題。

3.宋時代の中国社会。
中国人の思想的営為の問題だけでなく、日常生活とそれを支える経済問題にも関心を広げる。

4.明時代から清朝の初めの思想家の研究。

5. 異文化との交渉・衝突

6.中国の世界全容の把握。

四・ジャック・ジェルネ教授の中国研究の姿勢。

(あくまでも、筆者個人の眼に映ったJ.ジェルネ教授の中国研究であることをお断りしておく。)

P.ドゥミエヴィルの唐時代の禅僧の著述の研究を通して、自分自身の言葉で思想を語り、現実にも密着した思索活動を行うタイプの中国知識人の存在が明らかにされた。ジャック・ジェルネ教授の研究は、このドゥミエヴィルの中国研

究の線上にあって、終始経験と現実とに即して生まれた思索活動とその背景にある中国社会のあり方に、強い関心を示されてきた。

つまり、事象そのものをできるだけゆがめることなく、あるがままに把握することによって、中国の世界の実像を明らかにすることに努めてこられた。

科学史、技術史への関心も無論その延長線上にあると思われる。

ジャック・ジェルネ教授は、1985年秋に東アジア科学史技術史研究班を結成された。長年の中国研究の結果、中国世界が教授の頭のなかで明確に捉えられ、当然のこととして教授が熟知されているヨーロッパ文化との違いが浮き彫りにされるかたちとなったと思われる。

中国的思考は、その文字文化の特性から、物と言葉の対応関係を一つの大きな特徴とすることがよく指摘される。ジェルネ教授は、この特徴が科学、技術の分野で具体的にどのように現われているのかを明らかにすることに関心をおもいだと思われる。

中国の歴史の流れを大きく捉える場合、ジェルネ教授は宋時代を中国のルネッサンスとみられており、この時代に強い関心を持たれている。この宋時代の大規模な文化・社会変革を背景に、天文学・数学・暦学・医学・農業・建築などの分野で起こった新しい動きを明らかにし、さらにそれが後の時代、そして他の中国文化圏へどのように波及していったのかを見極めることが、中国研究上重要な問題だと考えられていると思われる。私たち研究班は、ジェルネ教授のこの問題意識を中心に据えて活動を行っている。その一環として、数年前から宋時代に現われる文学ジャンル「筆記」の中に見られる科学思想、科学的思考の把握を、班員共通の研究課題とした。

ジェルネ教授は、また、異文化間の交渉・衝突の問題にも強い関心をもたれてきた。1991年には、E.ズウルケールと「中国におけるヨーロッパを考える会」を結成され、ドイツ、ベルギー、フランス、イタリア、ネーデルランドの研究者を集めて、第一回の会議が同年十月にパリで行われている。同会議事録が「十七、八世紀の中国におけるヨーロッパ」と題して、1993年に刊行された。

五・二人目の指導者 Professeuru Pierre-Étienne WILL, P.-E. ヴィル教授は、1992年4月にコレージュ・ド・フランス中国近代史講座正教授の職に就任された。

業績(1971年－1994年)

(P.-E. ヴィル教授ご自身の作成された業績リストを翻訳させていただいた。)

著書

1. 「十八世紀の中国における官僚制と飢饉」

パリ、ハーグ、EHESS、ムトン、1980年。 *Bureaucratie et famine en Chine au 18e siècle*, Paris / La Haye.

英訳は、Stanford University Press, 1990.

中文訳を準備中。

2. 共著「民衆への食糧供給－1650年から1850年までの中国の非宗教的国家穀物貯蔵制度－」
ミシガン大学中国学研究センター、1991年、XXIV+607p.
Nourish the Peiople : The State Civilian Granary System in China ,1650-1850, Anne Arbor.

論文

1. ミシェル・カルテイエとの共著「中国における人口学と体制－後漢から1750-年までの中国の人口調査分析試論－」
パリ、「歴史的人口学年報」所収、1971年。
"Démographie et institutions en Chine : contribution à l'analyse des recensements de l'époque impériale (2 ap.J.-C.1750)", Paris.
- 2 「清時代の「奏摺制度」と帝位継承」
「通報」58所収、1972年。
"Transmissions secrètes et succession impériale à l' époque mandchoue",
Leiden, Paris.
3. 「民衆救済の官僚たち－十八世紀の中国で飢饉をどのように食い止めたか－」
「日仏文化」32所収、1976年。
"Les bureaucrates au secours du peuple : comment on enrayait une famine dans la Chine du XVIIIe siècle", Tôkyô.
4. 「日本の中国学と中国」
「クリテック」354所収、1976年。
"La sinologie japonaise et la chine", paris.
5. 「中国における水利サイクルの一つ－十六世紀から十九世紀の湖北省－」
「フランス極東学院紀要」68所収、1980年。 "Un cycle hydraulique en chine : la province du Hubei du XVIe au XIXe siècle", Paris.
6. 「水滸伝から文林まで－仏訳による二冊の中国の小説－」
「クリテック」411－412所収、1981年。 "Du bord de l'eau à la forêt des lettrés. Deux romans chinois en français.", Paris.
7. 「中国－大飢饉の国土－」
「歴史」44所収、1982年。 "Chine : la terre des grandes famines", paris.
8. 「清朝中国における穀物の公的貯蔵－運営と管理の問題－」
「アナルESC」所収、1983年。
"Stockage public des grains en Chine à l'époque des Qing (1644-1911) : problèmes de gestion et problèmes de contrôle", Paris.
9. 「政治危機、官僚制の背景の危機、水力危機と人口問題の危機－十七世紀の揚子江中流地域における底辺の情勢－」 "「クリュニイの耕地から緑化革命へ－農業技術と住民－」所収、パリ、PUF、1985年。
" Crise politique, crise des encadrements, crise hydraulique et crise démographique : la basse conjoncture dans le bassin central du Yangzi au XVIIe siècle", in *Des labours de Cluny à la révolution verte : techniques agricoles et population*, Paris.

10. 「中国の飢饉—避けられない運命か—」
 【今日の中国30】所収、1983年。
 "La famine en Chine : une fatalité?" in *Aujourd'hui la Chine 30*, Paris.
11. 「水利共有施設の管理における国家干渉—清朝下湖北省の場合」英文、
 【中国における国家権力の範囲】所収、ロンドン、ホンコン、School
 of Oriental and African Studies, 香港大学、1985年。
 "State invention in the administration of a hydraulic infrastructure : the
 examples of Hubei province in late imperial times", in *The
 Scope of State Power in China*, London/ Hong Kong.
12. 「明朝の盛衰」
 【歴史】78所収、1985年。
 "Vie et mort des Ming", Paris.
13. 「中国における長期経済変革研究のための原資料としての地方地理総覧、適時
 性と問題」(英文)
 【漢学研究】III-2所収、台北、1985年。
 "Local gazetteers as a source for the study of long-term economic change
 in China : opportunities and problems", Taipei.
14. 「1500年から1850年の揚子江中・下流地域における異変の出現とそれへの対
 応と経済変革」(英文)
 【中国経済史における国家と事業—980年から1980年まで—】所収、
 カリフォルニア大学出版会、近刊。
 "The occurrence of, and response to, catastrophes and economic change in
 the Lower and Middle Yangzi. 1500-1850", in *State and
 Enterprise in Chinese Economic History, 980-1980*, Berkeley.
15. 「前近世の中国における国家機構と経済上部構造」
 【中国の官僚制度】所収、パリ、ラルマタン、1987年。
 "Appareil d'Etat et infrastructure économique dans la Chine prémoderne",
 in *Les bureaucraties chinoises*, Paris.
16. 「清朝中国における水の管理の国家運営について」(英文)
 【極東史論文集】36所収、キャンベラ、1987年。
 "On state management of water conservancy in late imperial China",
 Canberra.
17. 「確信の時代から制度危機へ、反抗の時代と失敗に終わった近代化」
 【二十世紀の中国】所収、パリ、ファヤール、1989年。
 "De l'ère des certitudes à la crise du système", in *L'ère des rébellions et
 la modernisation avortée*, Paris.
 中文の抄訳あり。
18. 「表向き官僚制と実際の官僚制、清時代の帝国行政のいくつかのジレンマに
 ついて」
 【中国研究】8所収、パリ、1989年。
 "Bureaucratie officielle et bureaucratie réelle : sur quelques dilemmes
 de l'administration impériale à l'époque des Qing", Paris.

19. 「中国における技術と組織—帝国時代の灌漑と水力保護の場合—」
 【歴史研究所紀要】4所収、1989年。
 " Techniques et organisation en Chine : l'exemple de l'irrigation et de la protection hydraulique à l'époque impériale", Paris.
20. 「中国、中央の帝国—官僚制、政治形態、経済」
 【世界大百科事典 Encyclopaedia Universalis】所収、パリ、1989-年。
 " Chine. L'Empire du Milieu : Bureaucratie, gouvernement, économie"
21. 「中華帝国の文官官僚たち」
 【歴史学】152所収、パリ、1992年。
 " Les mandarins de la Chine impériale ", Paris.
22. 「現代社会における儒教の柔軟制」英文
 【極東アジア研究】6所収、1992年。
 " The resilience of ' Confucianism' in contemporary societies", in *Cahiers d'Extrême Asie*.
23. 「清時代における国家、政治管轄と食糧の再分配」
 【中国、日本、ベトナムの伝統における市民社会
 対国家】所収、パリ、フランス極東学院、1993年。
L'Etat, la sphère publique et la redistribution des subsistances à l'époque des Qing", in *La société civile face à l'Etat dans les traditions chinoise, japonaise, coréenne et vietnamienne / Civil Society vs. the State in Chinese, Japanese, Korean and Vietamese Tradition*, Paris.
24. 「縣から郷へ、郷から村へ—土地行政のパラドックス—」
 【歴史学者と地理学者】22所収、1993年。
 " De la sous-préfecture au canton et du canton au village : les paradoxes de l'administration territoriale", Paris.
25. 「近代中国と中国学」
 【アナル ESC】1994年—二月号所収、パリ、アルマン・コラン、1994年。
 " Chine moderne et sinologie", Paris.

付記 この報告は、杜石然、山田慶兒両教授主催の東アジア比較科学技術史研究会第七会例会において、筆者が行いました。こうした機会をお与え下さいました両教授に、研究班を代表して改めてお礼申し上げますとともに、公表の機会を下さいました日仏東洋学会に深甚の謝意を表します。

1994-1995 コレージュ・ド・フランス開講講座(東洋学関係)

III. SCIENCES HISTORIQUES, PHILOLOGIQUES ET ARCHÉOLOGIQUES

PALÉOANTHROPOLOGIE ET PRÉHISTOIRE

M. Yves COPPENS, membre de l'Institut, professeur

Nouveaux os, nouvelles pierres. Le modèle vieillissant, les mardis, à 11 heures, dans la salle 8. (Ouverture le 4 octobre.)
Séminaire : *La West Side Story*, les mardis, à 17 h 30, dans la salle 6. (Ouverture le 4 octobre.)

ÉGYPTOLOGIE

M. Jean YOYOTTE, professeur

Quelques divinités retrouvées, les mardis, à 10 heures, dans la salle 1. (Ouverture le 10 janvier.)
Séminaire : *Les contacts entre Égyptiens et Grecs (VI^e-III^e siècles avant J.C.) : données et réflexions*, les lundis, à 11 heures, dans l'Amphithéâtre Cardinal Lemoine (52, rue du Cardinal Lemoine, 75005 PARIS). (Ouverture le 9 janvier.)

ASSYRIOLOGIE

M. Paul GARELLI, membre de l'Institut, professeur

L'ancien royaume d'Assyrie, les jeudis, à 10 heures, dans la salle 7. (Ouverture le 12 janvier.)
Séminaire : *Les archives assyriennes de la Cappadoce*, les jeudis, à 11 heures, dans la salle 7. (Ouverture le 12 janvier.)

LANGUE ET LITTÉRATURE ARABES CLASSIQUES

M. André MIQUEL, professeur

Deux histoires d'amour fou : Majnûn et Tristan, les mardis, à 18 heures, dans l'Amphithéâtre Cardinal Lemoine (52, rue du Cardinal Lemoine, 75005 PARIS). (Ouverture le 7 octobre.)
Séminaire : *Les poèmes d'Usûma Ibn Munqidh*, les mardis, à 16 h 30, dans l'Amphithéâtre Cardinal Lemoine (52, rue du Cardinal Lemoine, 75005 PARIS). (Ouverture le 4 octobre.)

LANGUES ET RELIGIONS INDO-IRANIENNES

M. Jean KELLENS, professeur

L'âme entre le cadavre et le paradis, les vendredis, à 9 h 30, dans l'Amphithéâtre Cardinal Lemoine (52, rue du Cardinal Lemoine, 75005 PARIS). (Ouverture le 7 octobre.)
Séminaire : *Lecture du Hadost Nusk*, les vendredis, à 11 heures, dans la salle de séminaires Cardinal Lemoine (52, rue du Cardinal Lemoine, 75005 PARIS). (Ouverture le 7 octobre.)

HISTOIRE DU MONDE INDIEN

M. Gérard FUSSMAN, professeur

Routes et pseudo-routes de la soie (suite) : sites archéologiques de la Karakorum Highway (Pakistan), les jeudis, à 18 heures, dans l'Amphithéâtre Cardinal Lemoine (52, rue du Cardinal Lemoine, 75005 PARIS). (Ouverture le 2 mars.)
Séminaire : *Premiers résultats de l'étude de la ville de Chandevri (Inde)*, les vendredis, à 14 h 30, dans l'Amphithéâtre Cardinal Lemoine (52, rue du Cardinal Lemoine, 75005 PARIS). (Ouverture le 3 mars.)

HISTOIRE DE LA CHINE MODERNE

M. Pierre-Étienne WILL, professeur

État et société à la fin de l'empire : problèmes de communication (suite et fin), les mercredis, à 14 h 30, dans l'Amphithéâtre Cardinal Lemoine (52, rue du Cardinal Lemoine, 75005 PARIS). (Ouverture le 18 janvier.)
Séminaire : 1. *Irrigation et politique dans la province du Shaanxi (suite)*. 2. *Pensée économique et problèmes de développement en Chine avant le XX^e siècle*, les mercredis, à 15 h 45, dans la salle de séminaires Cardinal Lemoine (52, rue du Cardinal Lemoine, 75005 PARIS). (Ouverture le 18 janvier.)

CIVILISATION JAPONAISE

M. Bernard FRANK, membre de l'Institut, professeur

Routeaux illustrés à thème religieux. Suite de l'examen du « Heike-nôkyô », les mardis, à 14 h 30, dans l'Amphithéâtre Cardinal Lemoine (52, rue du Cardinal Lemoine, 75005 PARIS). (Ouverture le 10 janvier.)

Séminaire : *Le « Sanbô » de Minamoto no Tamenori, Livre II (Préface ; histoire du prince Shôtoku)*, les vendredis, à 10 h 30, dans la salle de séminaires Cardinal Lemoine (52, rue du Cardinal Lemoine, 75005 PARIS). (Ouverture le 6 janvier.)

HISTOIRE ET CIVILISATION DU MONDE BYZANTIN

M. Gilbert DAGRON, membre de l'Institut, professeur

Fonction économique des villes byzantines (VII^e-XII^e siècles), les jeudis, à 14 h 30, dans l'Amphithéâtre Cardinal Lemoine (52, rue du Cardinal Lemoine, 75005 PARIS). (Ouverture le 1^{er} décembre.)

Séminaire : *Études sur le « Livre des cérémonies » (suite)*, les jeudis, à 11 heures, dans la salle de séminaire du Centre d'Histoire de Civilisation de Byzance (52, rue du Cardinal Lemoine, 75005 PARIS). (Ouverture le 1^{er} décembre.)

Professeurs invités:

Monsieur le Professeur MIMAKI Katsumi, Professeur à l'Université de Kyoto:

Cours: Les philosophies des écoles bouddhiques d'après les doxographies indo-tibétaines.

Les jeudis 3, 10, 17 et 24 novembre 1994 à 14 heures 30, Amphithéâtre, 52 rue du Cardinal Lemoine.

Monsieur le Professeur Bernhard KÖLVER, Professeur à l'Université de Leipzig:

Cours: *The dhanna in Nepal: Traditions and Innovations.*

Les jeudis 3, 10, 17 et 24 novembre 1994 à 17 heures, Amphithéâtre, 52 rue du Cardinal Lemoine.

L'*Annuaire du Collège de France* publie chaque année le résumé, souvent détaillé, des cours et conférences prononcés par les Professeurs au Collège de France. On peut le commander au Service des Publications du Collège de France, 11 Place Marcelin Berthelot, 75231 Paris Cédex 05.

1994-1995 フランス国立高等研究院開講講座(東洋学関係)

第 4 部 門

CONFÉRENCES

La date d'ouverture de chaque conférence sera indiquée
par une affiche placée à l'intérieur de la Section

TECHNIQUES ET MÉTHODES DE L'ARCHÉOLOGIE

Conférence commune de MM. Michel FLEURY, Venceslas KRUTA, Jean MARGUERON et Michel TERRASSE :
les inscriptions seront prises à l'École ; une affiche indiquera le début des conférences.

ÉGYPTIEN

Directeur d'études, M. Pascal VERNUS : I. *Moyen égyptien : La sagesse de Ptahhotep (suite). Problèmes de linguistique.* — II. *Néo-égyptien : la sagesse d'Amenemopé (suite)*, les jeudis de quatorze à seize heures.

Chargé de conférences, M. Yvan KOENIG : I. *Initiation au hiéroglyphique et lecture de textes ramessides.* — II. *Textes magiques inédits (suite)*, les lundis de quatorze à seize heures.

INITIATION AU NÉO-ÉGYPTIEN

Chargé de conférences, M. François NEVEU, élève diplômé de la Section : *Le système verbal : formes non autonomes*, les vendredis de quatorze à quinze heures.

LANGUE ET LITTÉRATURE COPTES

Directeur d'études, M. Gérard ROQUET : I. *Système du verbe copte. Relation aux participants ; passivation ; ergativité.* — II. *Phonétique historique de l'égyptien : des hiéroglyphes aux dialectes coptes*, les mercredis de quatorze à seize heures.

DIALECTOLOGIE COPTE

Chargé de conférences, M. Pierre CHERIX : *Le papyrus Heidelberg n° 1, Acta Pauli en dialecte lycopolitain*, les deuxièmes et quatrième mardis de douze heures quinze à quatorze heures.

LA BABYLONIE AU PREMIER MILLÉNAIRE

Chargé de conférences, M. Francis JOANNÈS, professeur à l'Université Paris VIII : *Archives d'époque achéménide tardive*, les mardis de neuf à dix heures.

ANTIQUITÉS SUMÉRIENNES ET AKKADIENNES

Directeur d'études, M. Jean-Marie DURAND : I. *Nomadisme et tribalité en Mésopotamie, au II^e millénaire av. J. C. (suite)*, les vendredis de dix à douze heures.

ÉTUDES ANATOLIENNES : HITTITE ET HOURRITE

Chargé de conférences, M. Jean CATSANICOS, élève diplômé de la Section : *Littératures cunéiformes d'Anatolie : textes mythologiques hittites de provenance hourrite*, les vendredis de neuf à dix heures.

DIPLOMATIQUE ET PROSOPOGRAPHIE PALÉO-BABYLONIENNES

Chargé de conférences, M. Dominique CHARPIN, professeur à l'Université de Paris I : *Recherches de géographie historique : la région du Suhûm*, les mardis de dix à douze heures.

ADMINISTRATION ET ADMINISTRATEURS AU PAYS DE SUMER

Chargé de conférences, M. Bertrand LAFONT, chargé de recherches au C.N.R.S. : I. *Introduction aux archives d'époque néo-sumérienne.* — II. *Études de dossiers*, les jeudis de douze à treize heures.

ARCHÉOLOGIE DU PROCHE-ORIENT PRÉ-CLASSIQUE

Directeur d'études, M. Jean-Claude MARGUERON : I. *Recherches sur l'architecture de la Syrie Occidentale au Bronze Récent (Emar et Ugarit).* — II. *L'urbanisme au Proche-Orient (Mari et le III^e millénaire)*, les jeudis de douze à quatorze heures.

ANTIQUITÉS ET ÉPIGRAPHIE NORD-SÉMITIQUES

Directeur d'études, M. Maurice SZNYCER : I. *Retour à Chypre : nouveaux documents phéniciens*, les mardis de quinze à seize heures. — II. *Inscriptions puniques et néopuniques de Tunisie*, les mardis de seize à dix-sept heures.

PHILOGIE ET ÉPIGRAPHIE HÉBRAÏQUES ET ARAMÉENNES

Directeur d'études, M. André LEMAIRE : I. *Inscriptions de Kuntillet Ajrud et l'ashérah de YHWH*, les lundis de quatorze à quinze heures. — II. *Nouvelles inscriptions phéniciennes et araméennes de Palestine (époque perse). Inscriptions phéniciennes et araméennes du royaume de Samal (IX^e-VIII^e siècle avant notre ère)*, les lundis de quinze à seize heures.

HÉBREU, ARAMÉEN ET SÉMITIQUE COMPARÉ

Directeur d'études, M. David COHEN : I. *Problèmes de morphogénétiq ue chamito-sémitique*, les vendredis de quinze à dix-sept heures.

PHILOGIE BIBLIQUE ET TARGOUMIQUE

Directeur d'études, M. Jean MARGAIN : I. *Le Livre de Job (suite).* — II. *Araméen biblique*, les lundis de douze à quatorze heures.

ÉTHIOPIEN ET SUDARABIQUE

Directeur d'études, M. Maxime RODINSON : *Langue et littératures guèzes, les jeudis de seize à dix-sept heures.* — Exposés de M. Antoine LONNET : *Comparaison systématique du sudarabique moderne et du sudarabique épigraphique, les mercredis de seize à dix-sept heures.*

LIBYQUE ET BERBÈRE

Directeur d'études, M. Lionel GALAND : I. *Éditions de lettres de Touaregs au P. de Foucauld.* — II. *Questions de dialectologie berbère, les deuxième et (sur avis) les quatrième vendredis du mois de dix-sept à dix-neuf heures.*

ANTIQUITÉS ET CODICOLOGIE ARABES

Directeur d'études, M. François DEROCHÉ : I. *Questions de paléographie.* — II. *L'enluminure des Corans.* — III. *Les manuscrits arabes datés (suite), les lundis de dix à douze heures.*

PHILOLOGIE ARABE

Directeur d'études, M. Gérard TROUPEAU : I. *Explication du Kitâb Ma'ânî l-Qur'ân d'al-Farrâ', grammairien du IX^e siècle (suite).* — II. *Le Kitâb al-Mansûrî fî l-tibb d'al-Râzî : étude du texte arabe et de la version latine du Liber Almansorius de Rhazès (chap. II) (suite), les jeudis de seize à dix-huit heures.*

PALÉOGRAPHIE ET ÉPIGRAPHIE ARABES

Directeur d'études, Mme Janine SOURDEL-THOMINE : I. *Questions d'épigraphie arabe.* — II. *Étude d'inscriptions monumentales et de documents d'archive, les troisième jeudis de quatorze à seize heures.*

LINGUISTIQUE ET PHILOLOGIE IRANIENNES

Directeur d'études, M. Gilbert LAZARD, membre de l'Institut : La conférence n'aura pas lieu en 1994-1995.

Directeur d'études, M. Pierre LECOQ : *Introduction à la grammaire du moyen iranien et lecture de textes en moyen perse et parthe manichéens, les mardis de douze à quatorze heures.*

LANGUES ET CIVILISATIONS DU CAUCASE

Chargé de conférences, M. Georges CHARACHIDZÉ : *Initiation aux langues ingouche et tchéchène, les premier et troisième mercredis de seize heures à dix-huit heures.*

GRAMMAIRE COMPARÉE DES LANGUES FINNO-OUGRIENNES

Directeur d'études, M. Jean PERROT : *Structures d'énoncé dans les langues ouraliennes : étude comparative, premier semestre les vendredis de seize à dix-huit heures.*

LINGUISTIQUE AFRICAINE

Chargé de conférences, M. Emilio BONVINI, directeur de recherche au C.N.R.S., élève diplômé de la Section : I. *Prédication et énonciation.* — II. *Catégories et constructions syntaxiques, les mardis de dix à douze heures.*

LANGUES INDIGÈNES DE L'AMÉRIQUE HISPANIQUE

Chargé de conférences, M. Michel LAUNEY, professeur à l'Université de Paris VII : I. *Typologie de la prédication dans les langues amérindiennes.* — II. *Comptes-rendus de mission, les premier et troisième mardis de seize à dix-huit heures.*

SANSKRIT

Directeur d'études, M. Pierre-Sylvain FILLIOZAT : I. *Poésie sanskrite : explication du Harshacarita.* — II. *Le travail intellectuel dans l'Inde ancienne : le vyākaraṇa, les lundis de dix-huit à vingt heures.*

HISTOIRE DES SCIENCES DANS L'INDE

Chargé de conférences, M. Guy MAZARS : I. *Les médicaments ayurvédiques hier et aujourd'hui.* — II. *La médecine yinānt dans le Sultanat de Delhi (XIII^e-XVI^e siècles), les premier et troisième lundis de seize à dix-huit heures.*

HISTOIRE ET PHILOGIE DE L'INDE OCCIDENTALE AU MOYEN AGE

Directeur d'études, Mme Françoise MALLISON : I. *Poésie musulmane en langue gujarati ; les Ginân ismailiens d'Imam Begum - initiation au gujarati (suite)*, les premier et troisième lundis de dix-huit à vingt heures. — II. *Étude comparée des compositions lyriques des saints vishnouïtes et des récits hagiographiques de leur vie, en braj et gujarati - initiation à la langue braj, dialecte du hindi (suite)*, les premier et troisième mardis de dix à douze heures.

HISTOIRE ET PHILOGIE DE L'INDE MÉRIDIONALE

Directeur d'études, M. François GROS : I. *Explication de textes tamouls anciens (sangam et textes de Bhakti) (suite)*. — II. *Tradition littéraire et histoire culturelle (suite)*, les mardis de dix-huit à vingt heures.

ÉPIGRAPHIE DE L'INDE ET DE L'ASIE DU SUD-EST

Directeur d'études, M. Claude JACQUES : I. *Histoire du pays khmer : L'époque angkoriennne : Jayavarman V et ses successeurs*. — II. *Étude d'inscriptions récemment découvertes en Thaïlande*, les lundis de quatorze heures quinze à seize heures quinze.

HISTOIRE ET ARCHÉOLOGIE DES ÉTATS COTIERS DE L'ASIE DU SUD-EST

Chargé de conférences, M. Pierre-Yves MANGUIN, chargé de recherches à l'École française d'Extrême-Orient : I. *La formation des grands États marchands d'Asie du Sud-Est : rapports entre la côte et l'arrière-pays, dynamique d'occupation des périphéries..* — II. *Étude archéologique des sites portuaires de Sumatra-Sud à l'époque de Sriwijaya (VII^e-XIII^e siècles) (suite)*, les vendredis de douze à quatorze heures.

PHILOGIE DES TEXTES BOUDDHIQUES KHMERS

Chargé de conférences, M. François BIZOT, membre de l'École française d'Extrême-Orient : I. *Philologie : Brah Dhammatrai, vol. 6*. — II. *Histoire : La tradition des ascètes non-bhikkhu*, les vendredis de douze à quatorze heures.

HISTOIRE ET CIVILISATIONS DE LA PÉNINSULE INDOCHINOISE

Directeur d'études, M. NGUYEN THE ANH : I. *Économie et société au Viêt-Nam au XIX^e siècle (suite)*, les premier et troisième lundis de quatorze à seize heures. — II. *La notion d'État dans les pays indochinois et malais au XIX^e siècle (suite)*, les premier et troisième mardis de douze à quatorze heures.

Maître de conférences, Mme Thanh-Tâm LANGLET : I. *Histoire du Bouddhisme vietnamien : synchrétisme et renouveau dans la première moitié du XX^e siècle*, les premier et troisième vendredis de dix à douze heures. — II. *Études de documents*, les premier et troisième vendredis de quinze heures à dix-sept heures.

HISTOIRE MODERNE DU CAMBODGE

Chargé de conférences, M. Pierre LAMANT, professeur à l'Institut national des langues et civilisations orientales : I. *Éléments pour une histoire de Phnom Penh (suite)*. — II. *Direction de travaux de recherche*, les deuxième et quatrième vendredis de dix à douze heures.

HISTOIRE ET PHILOGIE TIBÉTAINES

Directeur d'études, Mme Ariane SPANIEN : *Les fêtes instituées par Mu-ne btsan -po av. VIII^e siècle et leurs prolongements*, les mercredis de dix-sept à dix-neuf heures.

HISTOIRE DES SCIENCES ET TECHNIQUES DE LA VIE DANS LE MONDE TIBÉTAIN

Chargé de conférences, M. Fernand MEYER : I. *Les antécédents des conceptions indo-tibétaines relatives à la vie et au corps*. — II. *La guérison dans l'hagiographie tibétaine : analyse de biographies*, les jeudis de dix-huit à vingt heures.

ARCHÉOLOGIE DE LA CHINE

Directeur d'études, Mme Michèle PIRAZZOLI-T'SERSTEVENS : *L'importance des traditions locales dans la culture matérielle du Jiangnan aux III^e et IV^e siècles de notre ère*, les mercredis de douze à quatorze heures.

Chargé de conférences, M. Paul MAGNIN, élève diplômé de la Section, directeur de recherche au C.N.R.S. : *Le rôle des laïcs dans l'expansion du bouddhisme chinois : aspects théoriques et pratiques*, les deuxième et quatrième lundis de seize à dix-huit heures.

HISTOIRE ET PHILOGIE DE LA CHINE CLASSIQUE

Directeur d'études, M. Jean-Pierre DIÉNY : I. *L'empereur Xuanzong des Tang : étude parallèle de textes historiques et anecdotiques.* — II. *Lecture du Youyang zazu de Duan Chengshi (803-863),* les lundis de quatorze à seize heures.

Directeur d'études, M. François MARTIN : I. *Groupes, réunions et jeux littéraires dans la Chine médiévale (Qi et Liang).* — II. *Recherches sur les origines de l'exégèse du Shijing : la pratique des échanges de poèmes dans le Zuo zhuan,* les mardis de douze à quatorze heures.

HISTOIRE ET CIVILISATION DE L'ÉCRIT EN CHINE

Directeur d'études, M. Jean-Pierre DRÈGE : I. *Le papier et son histoire.* — II. *Questions d'épigraphie,* les mardis de quatorze à seize heures.

HISTOIRE ET PHILOGIE JAPONAISES

Directeur d'études, Melle Francine HÉRAIL : I. *La justice dans le Japon ancien (suite).* — II. *Le Shunki, notes journalières de Fujiwara no Sukefusa (1007-1067) et Daijingu shozojiki. Mélanges relatifs au grand sanctuaire d'Ise,* les lundis de dix-sept à dix-neuf heures.

第 5 部門

PROGRAMME DES CONFÉRENCES POUR L'ANNÉE 1994-1995

La date d'ouverture de chaque conférence sera indiquée par une affiche exposée au siège de la Section

ETHNOLOGIE DES SOCIÉTÉS DE L'ASIE DU SUD-EST ET DE L'OcéANIE

Directeur d'études : M. N

Les conférences auront lieu les jeudis de 18 h. à 20h. Le sujet sera précisé ultérieurement.

RELIGIONS DE L'AMÉRIQUE PRÉCOLOMBIENNE

Directeur d'études : M. Michel GRAULICH

Fêtes mobiles et occasionnelles des Aztèques (suite et fin), les lundis de 16 h. à 19 h. (tous les 15 jours).

ETHNOLOGIE RELIGIEUSE DES SOCIÉTÉS DE LA PLAINE ET DE LA FORÊT (AMÉRIQUE DU SUD)

Maitre de Conférences : M^{me} Jacqueline DUVERNAY-BOLENS

1. *Les mots et les concepts de l'observation chez les voyageurs-naturalistes en Amérique,* en alternance les vendredis de 12 h. à 14 h. (tous les 15 jours). - 2. En collaboration avec C. Callier-Boisvert (Centre d'Études Portugaises) et M. F. Piguet (CNRS) : *Les mots et les concepts de l'observation, approches comparatives,* en alternance les vendredis de 12. h à 14 h. - 3. Cf. infra : conférences d'introduction, les lundis de 12 h à 14 h.

RELIGIONS DE L'AFRIQUE NOIRE

Directeur d'études : M. Michel CARTRY

1. *La notion de texte rituel dans les sociétés à tradition orale (suite)*, les vendredis de 9 h. 45 à 10 h. 45. - 2. *Etude de textes rituels recueillis au Burkina Faso*, les vendredis de 10 h. 45 à 11 h. 45.

Chargé de conférences : M. Youssouf Cissé

1. *Les symboles graphiques dans l'initiation africaine (1^{er} semestre)*. 2. *La confrérie des chasseurs mandingues : structures, mythes, rites, cérémonies et récits initiatiques (2^{ème} semestre)*, les mardis de 9 h. à 11 h. (tous les 15 jours).

Directeur d'études : M. Alfred ADLER

Mythes et rites royaux d'Afrique noire, les mardis de 11 h. à 13 h.

RELIGIONS DE L'ASIE SEPTENTRIONALE

Directeur d'études : M^{me} Roberte HAMAYON

Chamanismes comparés, à la lumière des références sibériennes : Typologie des modes de représentation des "esprits" et des modes de contact avec eux, les jeudis de 10 h. à 12 h. - *Travaux spécialisés sur l'aire mongole et sibérienne*, les jeudis de 9 h. à 10 h. et *Travaux dirigés sur les thèmes du séminaire*, les jeudis de 12 h. à 13 h.

Directeur d'études invité : M. Karl Joseph REICHL

Les sujets, jours et heures seront précisés ultérieurement.

RELIGIONS TIBÉTAINES

Directeur d'études : M^{me} Anne-Marie BLONDEAU

1. *Questions de terminologie bouddhique comparée (rnying-ma-pa et gsar-ma-pa) d'après l'œuvre de 'Ba-ra-ba rGyal-mtshan dpal-bzang-po* - 2. *Des dieux et des démons. Panthéon et récits mythologiques dans les tantra "anciens" (suite)*, les jeudis de 11 h. à 13 h. Cf. aussi *infra* : conférences d'introduction, les jeudis de 10 h. à 11 h.

RELIGIONS DE LA CHINE

Directeur d'études : M. Kristofer SCHIPPER

1. *Les concepts fondamentaux du taoïsme dans le Zhuangzi*. - 2. *Les temples de Pékin: sources épigraphiques*. - 3. *Séminaires d'ethnopsychiatrie chinoise*, les samedis de 9 h 30. à 12. h. 30.

N.B. : Les conférences 1 et 2 sont accessibles à tous ceux qui possèdent une bonne connaissance du chinois classique. Le séminaire d'ethnopsychiatrie accueille aussi les non-sinologues (se renseigner).

Chargé de conférences : M. Alexandre GUILLEMOZ

Le chamanisme coréen contemporain, les samedis de 10 h. à 12h.

Chargée de conférences : M^{me} Caroline GYSS VERMANDE

Iconographie du panthéon de la Chine moderne : origines et évolution, les mardis de 12 h. à 14 h. tous les 15 jours.

Directeurs d'études invités : M. IDEMA

Les sujets, jours et heures seront précisés ultérieurement.

SYSTEMES DE CROYANCE ET DE PENSÉE DU MONDE SINISÉ

Directeur d'études : M. Marc KALINOWSKI

1. *Figures du divin dans la Chine antique (II) : Tian (le ciel) et Shangdi (le Seigneur d'En-haut) dans la religion des Zhou*, les vendredis de 14 h. à 16h. - 2. *Perspectives critiques sur la divination : lecture de textes des Royaumes Combattants et des Han*. (Lieu et heure seront précisés ultérieurement).

RELIGIONS ET TRADITIONS POPULAIRES DU JAPON

Directeur d'études : M. Hartmut O. ROTERMUND

1. *Du Shasekishū au Konsenshū : récits exemplaires du Moyen Age*, les vendredis de 16 h. à 17 h.30 - 2. *Aspects socio-culturels de la prédication bouddhique au 19^{ème} et 20^{ème} siècles*, les vendredis de 17 h.30 à 19 h.

Chargé de conférences : M. Jean-Pierre BERTHON

Millénarisme et pensée de "rénovation du monde" (yonaoshi) dans les nouvelles religions japonaises, les mercredis de 18 h. à 19 h.

BOUDDHISME JAPONAIS

Directeur d'études : M. Jean-Noël ROBERT

1. *Les "notes sur le Scalpel Adamantin" (Chū-Kongōbei-ron) attribuées à Saichō (suite)*, les mardis de 18 h. à 20 h.

(La 3^{ème} heure sera consacrée à la lecture d'extraits du *sūtra du Lotus* en chinois et en sino-japonais).

RELIGIONS DE L'INDE

Directeur d'études : M. Charles MALAMOUD

1. *Les vaches, l'or, les vêtements ; usages religieux des biens matériels dans l'Inde védique et brahmanique*, les mardis de 14 h. à 16 h. - 2. *Explication d'hymnes à la déesse Parole*, les premier et troisième mercredis de chaque mois de 10 h. à 12 h. dans les locaux du C.E.I.A.S. 54, boulevard Raspail, 7^{ème} étage.

Chargée de conférences : Mme Lyne BANSAT-BOUDON

Rite et scène : l'enseignement du Nātyaśāstra, les mercredis de 14 h. à 16h. tous les 15 jours.

Directeur d'études : M^{me} Marie-Louise REINICHE

1. *Le cas indien : paradigme des points de vue religieux et politique et leurs rapports dans l'évolution des sociétés (suite)*, les jeudis de 16 h. à 18 h. - 2. *Ethnologie et sociologie de l'hindouisme*, jour et horaire à fixer.

ETHNOLOGIE RELIGIEUSE DE L'EUROPE

Directeur d'études : M^{me} Jeanne FAVRET-SAADA

1. *L'anthropologie des idées morales contemporaines* - 2. *Les affects dans les sciences sociales : G. Bateson et la cérémonie du Naven*, les mercredis de 10 h. à 12 h.

RELIGION POPULAIRE DES SLAVES DE L'EUROPE ORIENTALE

Directeur d'études : M. Ludwik STOMMA

Ethnologie dans les pays de l'Est : horizons et propositions, les vendredis de 14 h. à 16 h.

Directeur d'études invité : M. Krzysztof PLATKOWSKI

Les sujets, jours et heures seront précisés ultérieurement.

RELIGION DE L'ÉGYPTE ANCIENNE

Directeur d'études : M^{me} Christiane ZIVIE-COCHE

1. *La pensée cosmogonique : notions conceptuelles et récits mythologiques (suite).*
2. *Lectures ptolémaïques : autour des théologies thébaines*, les mercredis de 12 h. à 14 h. (La 3^{ème} heure se fera sous forme de séminaires dont les horaires seront précisés ultérieurement).

Directeur d'études invité : M. Philippe DERCHAIN

Les sujets, jours et heures seront précisés ultérieurement

RELIGION ÉGYPTIENNE DANS LES MONDES HELLENISTIQUE ET ROMAIN

Directeur d'études : M. Jean-Claude GRENIER

L'Égypte de Strabon (livre XVII), les jeudis de 11 h. à 13 h. et les vendredis de 10 h. à 12 h. (tous les 15 jours).

RELIGION ASSYRO-BABYLONIENNE

Directeur d'études : M. Daniel ARNAUD

1. *Textes religieux dans les scriptoria syriens*, les mercredis de 10 h. à 11 h. - 2. *Les personnes de statut dégradé et la religion en Mésopotamie*, les mercredis de 11 h. à 12 h.
- 3. Cf. aussi *infra* : conférences d'introduction, les mercredis de 9 h. à 10 h.

RELIGIONS DE L'IRAN ANCIEN

Directeur d'études : M. Philippe GIGNOUX

1. *Recherches d'anthropologie ancienne d'époque sassanide.* - 2. *Explication du Dénkard IV.* - 3. Travaux dirigés pour doctorants, les mardis de 9 h. à 12 h.

RELIGIONS DU PROCHE ORIENT SÉMITIQUE ANCIEN

Directeur d'études : M^{me} Hedwige ROUILLARD-BONRAISIN

1. *Ugarit : la musique et la danse* - 2. *La question de la prostitution dans l'Israël ancien : le profane et le sacré, le propre et le figuré*, les mardis de 16 h. à 18 h.

Directeur d'études invité : M. Nicholas WYATT

Les sujets, jours et heures seront précisés ultérieurement.

RELIGION HITTITE ET ASIENNE

Chargée de conférences : M^{me} Hatice GONNET

1. *La souveraineté et sa représentation.* - 2. *L'expression de "moi" dans les textes hittites*, les jeudis de 18 h. à 20 h. - 3. Cf. aussi *infra* : conférences d'introduction, les samedis de 10 h. 30. à 12 h. 30.

EXÈGÈSE ET PHILOSOPHIES DANS LE JUDAÏSME

Directeur d'études : M. N

Les conférences auront lieu les vendredis de 10h. à 12h. Le sujet sera précisé ultérieurement.

HISTOIRE DU JUDAÏSME A L'EPOQUE HELLENISTIQUE ET ROMAINE

Directeur d'études : M. Francis SCHMIDT

Qoumrân : les relations entre le site et les textes, les lundis de 13 h. à 15 h.

Chargée de conférences : M^{me} Liliane VANA

Relations entre juifs et païens en Judée romaine, les 1^{er} et 3^{ème} mercredis du mois, de 13 h. à 14 h.

Directeur d'études invité : M^{me} Devorah DIMANT

Les sujets, jours et heures seront précisés ultérieurement.

JUDAÏSME MÉDIEVAL ET MODERNE

Directeur d'études : M. Gérard NAHON

1. *Le commentaire de Jacob b. Samson sur les Chapitres des Pères (Paris XII^{ème} siècle)*, les mercredis de 14 h. à 15 h. - 2. *Safed et Jérusalem au XVI^{ème} siècle : la "durée de l'exil"* les mercredis de 15 h. à 16 h. - 3. *Séminaires sur les rabbins du Paris médiéval*, les 1^{er} et 3^{ème} jeudis du mois de 10 h. à 12 h. ENS, 1, rue Maurice Arnoux - 92120 Montrouge (tel. 47.35.55.89).

Chargée de conférences : M^{me} Micheline CHAZE

1. *Initiation aux langues et littérature rabbiniques : araméen babylonien*, cf. infra : conférences d'introduction. - 2. *Mystique juive : "L'œuvre de la Création" selon quelques théologiens et kabbalistes espagnols des XII^{ème} et XIII^{ème} siècle : études de textes*, les vendredis de 12 h. à 14 h.

Chargée de conférences : M^{me} Gabrielle SED-RAJNA

L'image du Temple de Jérusalem dans l'art, les lundis de 15 h. à 16 h.

Directeur d'études invité : M. Joseph DAN

Les sujets, jours et heures seront précisés ultérieurement.

PROBLÈMES RELIGIEUX DE L'ISLAM MODERNE

Directeur d'études : M. N

Les conférences auront lieu les mercredis de 16h. à 18h. Le sujet sera précisé ultérieurement.

HISTOIRE DES DOCTRINES SHI'ITES

Maître de conférences : M. Mohammad Ali AMIR MOEZZI

L'enseignement sacré et ses niveaux (zâhir, bâtin, baṭin al-bâtin), les lundis de 11 h. à 13 h.

日本学術会議だより

第16期活動計画決まる

平成6年11月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、9月28日から30日までの3日間、第120回総会を開催しました。今回の日本学術会議だよりでは、総会の概要及び第16期活動計画についてお知らせします。

日本学術会議第120回総会報告

日本学術会議第120回総会は、平成6年9月28日から3日間にわたって開催されました。

この中で、①第16期の活動の指針となる「第16期活動計画(申合せ)」を賛成多数で可決しました。その他②第2部世話担当の「環境法学・環境政策学研究連絡委員会」の設置及び第3部世話担当の「技術革新問題研究連絡委員会」を「技術革新・技術移転問題研究連絡委員会」に名称変更することを内容とした日本学術会議会則の改正、③運営審議会附置将来計画委員会を改組して、移転準備委員会を設置することをいずれも賛成多数で可決しました。

なお、活動計画の内容は、下記のとおりです。

第16期活動計画(申合せ)

今世紀後半、世界は大きく変化し、今や重大な転換期を迎えるに至った。人類は、多くの新たな問題に直面し、21世紀に向けてその生存と繁栄のための新たな世界秩序を模索している。ここにおいて人類の「知」の適切な行使が求められ、学術に対する期待が高まるとともに、学術自体のあり方もまた問いなおされようとしている。このような世界情勢の中で、我が国の諸活動における学術の重要性はますます増大しており、我が国の将来は—に学術の発展にかかっているといっても過言ではない。

本会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信に立って、科学者の総意の下に、我が国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学界と提携して学術の進歩に寄与することを使命として設立された(日本学術会議法前文)。その後半世紀にわたり、本会議は我が国の科学者の内外に対する代表機関として、学術の進展に貢献してきたが、上記の学術の重要性にかんがみ、本会議の果たすべき役割は、さらに増大しつつある。

本会議は、その役割を遂行するために、以下のとおり第16期における活動計画を定め、人文・社会科学及び自然科学を縦断する我が国唯一の機関であるという特色を生かしつつ、これに即して活動する。

1. 活動の視点

日本学術会議は、第16期の活動において、以下の視点を重視する。

(1) 歴史的転換期における新たな展望の探求

人類の歴史は、今や重大な転換期を迎え、その先行きはきわめて不透明である。人類社会は、21世紀に向けてその未来を切り開くために、学術の発展をますます必要とし、学術の主体性を確立することを求めている。日本学術会議は、学術と社会との深い関わりに思いをいたし、人文・社会科学及び自然科学にわたる我が国の科学者の

総意を結集し、人類社会の新たな展望の探求のために、学術が果たすべき役割を考察する。

(2) 日本の学術研究体制の方向づけ

学術が果たすべき役割からみるとき、日本の学術研究体制の現状には、早急に改善すべき点が多々存在する。特に、その中軸をなす大学、研究機関、学術団体は、研究の進歩に伴う新たな専門分化や、急速に進行しつつある学術の国際化、情報化に早急に対応することを迫られている。また、これらは、研究上の後継者を含む人材育成における深刻な困難に直面し、その克服の方法を模索している。日本学術会議は、日本の学術研究体制が新たな状況に対応し、人類社会の期待に応える研究成果を生み出すことができるように、その方向づけについて協力する。

(3) 国際学術活動への積極的貢献

我が国における学術の国際交流は、従来ややもすると先進諸国の学術を受容することに重点が置かれてきた。しかし、今や我が国には、国際平和の推進や環境問題の解決等、地球的、国際的規模の課題について、自らの研究を充実させつつ、広く世界の学術の発展に積極的に関与することが求められている。

このため、日本学術会議は、日本の学術が受け身の態勢を脱し、その特色を生かしつつ、世界の学術の発展のためにイニシアティブを発揮することができるように、自らの役割を果たすべきである。

2. 重点課題

日本学術会議が対応すべき学術上の課題としては、(1)各学術分野に共通する学術研究体制上の当面の重要課題、(2)現在、人類社会が直面している重要課題で、人文・社会科学から自然科学にわたる総合的な知見が必要とされているもの、(3)今後重要となると予想される学術的な重要課題のうち、本会議として特に先見性を発揮して研究環境の整備等を断るべきもの、が考えられる。

本会議は、これらの中から早急に取り組むべき重点課題を設定し、人文・社会科学から自然科学にわたる全分野の科学者の意見を結集して検討にあたる。

これらのうち、特に緊急な対応を要する課題は、機動的かつ早急に審議を行い、その結果を対外的に発表する。さらに、第16期中に発生するであろう新たな問題についても、迅速な対応を図る。

日本学術会議は、発足して50年近くになるが、本会議そのもののあり方についても常に検討を続ける必要がある。

現時点において取り組むべき重点課題を以下に示す。

(1) 21世紀に向けての新しい学術の動向

「知」の総合化や学術諸分野の再編成など、新しい学術の動向を、とりわけパラダイムの転換を中心に把握し、21世紀に向けての学術のあり方について検討する。

(2) 学術研究体制の整備

① 学術団体の支援・強化方策

さまざまな困難に直面している学術団体の現状を踏まえ、その支援・強化等の方策について検討する。

② 大学・研究機関における研究基盤の改革

大学院重点化やセンター・オブ・エクセレンスの構想等我が国の研究体制の新しい動向を把握し、大学・研究機関における研究基盤の改革について検討する。

③ 優れた研究者の養成・確保と教育

若者が理工系を始めとして長期の学習を要する学術分野を離れる傾向が指摘されていることから、優れた研究者の養成・確保方策について、教育のあり方をも含めて検討する。

(3) 科学者の地位と社会的責任

女性科学者の研究環境の改善について声明を発表した第15期に引き続き、学問・思想の自由、科学者の地位と倫理・社会的責任について検討を深める。特に、我が国の若手研究者の研究環境を改善し、研究意欲を向上させるために、科学者の地位・処遇、研究費の配分、業績評価のあり方等について検討する。

(4) 学術情報・資料の充実・整備

① 学術における情報化の推進

今後極めて重要となるデータベースの作成やコンピュータ・ネットワーク・システムの整備など、学術における情報化の推進方策について検討する。

② 公的資料等の保存・施設の整備と公開

公的資料等の保存、その施設・設備の整備と公開手続の確立についてさらに前進させる。

③ 知的財産権

急速な情報技術の進展に伴い、顕在化してきた知的財産権の問題について、専門家の養成の問題をも含めて検討する。

(5) 国際学術交流・協力の推進

① 学術における国際化の推進と国際対応力の強化

学術分野における国際化の推進と国際対応力の強化方策について、いわゆるメガサイエンスにおける国際協力のあり方をも含めて検討する。

② 国際的にバランスのとれた学術交流・協力のあり方

欧米諸国との交流に偏っている現状を見直し、バランスのとれた学術交流・協力を実現するために、アジアを始めとする世界の諸地域との学術交流・協力のあり方や交流・協力のための基盤の育成方策について検討する。

③ 学術国際貢献のための新システム

学術分野における国際貢献のために必要とされ、第15期において検討された新たなシステムの構築について、さらに努力する。

(6) 高齢化社会の多面的検討

高齢化の急速な進行に直面しつつも、健やかに老いることのできる社会の実現のため、生き甲斐の問題や小児期からのライフスタイルの改善、雇用・年金・医療・福祉など高齢化社会に伴う経済上、法律上の諸問題、高齢化社会に向けての研究開発体制、高齢化社会に適合しうる医療とケアのシステムなどについて、老人医学を始めとする諸科学が協力的に多面的に検討する。

(7) 生命科学の進展と社会的合意の形成

生命科学とその応用の急速な進展のみならず倫理的、社会的諸問題について、自然科学と人文・社会科学との協力の下に検討し、これら諸問題の解決方策の検討及びこれに対する社会的合意の形成に資する。

(8) 学術と産業

学術と産業の関わりの実態分析の上に立ち、今日の学術と産業とがそれぞれにとって有する意義と問題点を明らかにするとともに、企業と大学・研究機関における適切な研究の役割分担や基礎的研究の研究体制など、学

術と産業との関係のあり方を行政の位置づけをも含めて検討する。

(9) 地球環境と人間活動

人類の経済社会活動の拡大等に伴い深刻化している環境問題について、エネルギーや土地の利用などの人間活動との関連や、ライフスタイルのあり方、人口と食糧の問題の検討を含め、持続可能な発展のための方策、及びこれに対する我が国の貢献のあり方について検討する。

(10) 脳の科学とこころの問題

今後の学術研究において重要な学際的課題となることと予想される脳の科学とこころの問題について、21世紀に向けての学術研究上の課題と展望とを明らかにするとともに、今後の研究体制のあり方について検討する。

(11) アジア・太平洋地域における平和と共生

国際的な平和の問題が新たな様相を呈している冷戦後の世界情勢を検討する中で、特にアジア・太平洋地域における平和と安全に関連する諸要因を分析し、貧困の克服と福祉の増進、経済発展と科学技術、文化の相互関係と多様な価値の共存の問題など、平和と共生に寄与するための学術的視点について、アジア・太平洋地域に重点を置いて検討する。

(12) グローバリゼーションと社会構造の変化

世界が、国際化・情報化・市場経済化などを通じてグローバル化に向かって大きく変化している中で、我が国の産業空洞化、日本型経営・雇用慣行の変化、多国籍企業や知的財産権の問題、市民生活・文化へのインパクトなど社会構造に生じている新しい課題を洞察し、これに抜本的に対処するため、学術的視点から検討する。

3. 重点課題の審議

上記の重点課題の審議は、常置委員会及び今期の当初設置する特別委員会(別表2)がこれにあたる。両委員会は、速やかに審議を行い、第16期中(緊急性のあるものについては、1年ないし2年以内)に検討結果を発表する。常置委員会、特別委員会及び研究連絡委員会は、相互の連絡・協力を密にする。

なお、常置委員会及び特別委員会の所掌事項は別表1及び2に示すとおりである。

(別表1及び別表2省略)

※参考

〈常置委員会名〉 (事項)

- 第1 常置一研究連絡委員会活動活性化の方策及び日本学術会議の組織に関すること。
- 第2 常置一学問・思想の自由並びに科学者の倫理と社会的責任及び地位の向上に関すること。
- 第3 常置一学術の動向の現状分析及び学術の発展の長期的動向に関すること。
- 第4 常置一創造的研究醸成のための学術体制に関すること及び学術関係諸機関との連携に関すること。
- 第5 常置一学術情報・資料に関すること。
- 第6 常置一国際学術交流・協力に関すること(第7常置委員会の事項に属するものを除く)。
- 第7 常置一学術に関する国際団体への対応及びその団体が行う国際学術協力事業・計画への対応に関すること。

〈特別委員会名〉

- 高齢化社会の多面的検討
- 生命科学の進展と社会的合意の形成
- 学術と産業
- 研究者の養成・確保と教育
- 地球環境と人間活動
- 脳の科学とこころの問題
- アジア・太平洋地域における平和と共生
- グローバリゼーションと社会構造の変化

(注) 特別委の検討事項は「2 重点課題」の関係項に同じ。

K. シペール教授

オランダ、ライデン大学教授に就任

高等研究院 (É. P. H. É.) 宗教学部門、クリ
ストファー・M・シペール教授は、ライデン
大学中国学教授に就任、昨年12月2日ライデ
ン大学において叙任式が盛大に行なわれた。
式には、本学会会長福井文雅教授が招待され、
式後の就任講演と祝宴にも親族待遇で同席し
た。

シペール教授の道教研究者としての世界的
な活躍は、ここで述べるまでもないが、本学
会との関係でいえば、過去三回の日仏コロ
ックでフランス側代表や役員を勤めた。オラン
ダは、教授の出身地であり今回の就任は栄転
として受けとられている。尚、フランス高等
研究院は現職のままで、従来どうりの講座を
担当する。

F. エライユ女史

片山蟠桃賞受賞

フランシーヌ・エライユ教授 (É. P. H. É.)
は、1994年5月片山蟠桃賞を受賞され、大阪
フェスティバルホールで記念講演をされた。
エライユ女史は、平安文化の研究者として広
く知られ、昨年2月には日仏会館で「日記か
らみた平安時代の生活」と題した講演をされ
ている。その内容は日仏会館『日仏文化』57
号に掲載される。

饒宗頤教授

高等研究院名誉博士に叙任

香港中文大学名誉教授饒宗頤博士に、1993
年11月フランス国立高等研究院 (É. P. H. É.) よ
り名誉博士が贈られた。これは、高等研究院
創立百二十五年を記念して、博士の敦煌学と
甲骨文の研究に対して贈られたものである。
饒教授は、今世紀後半を代表する中国学者の
一人として夙に知られており、その広汎な活
動領域は、中国の文学・哲学・歴史のみなら
ず芸術や社会学にまで及ぶ。1978年に中文大
学を退任、現在も第一線で活躍されている。

M. ストリックマン教授死去

道教学研究の第一人者ミッシェル・ストリ
ックマン教授 (ボルドー大学) は、1994年8月
破傷風のため急逝した。

教授は、四年前アメリカ、カリフォルニア
大学バークレイ校よりボルドー大学に転じた
中国宗教の少壮研究者で、R. スタン博士の
記念論文集の編集などをてがげ、茅山派道教
の研究で知られていた。

日仏コロック

本学会 [東南アジア部会] が参加

9月から始まる日仏コロックの一環として、

東洋学会から〔東南アジア部会〕が参加する。テーマは「東南アジア史研究の現状と未来像」(仮題)、12月初旬に東京都内で開催の予定。石井米雄・生田滋・石沢良昭の三氏の主催で、現在生田氏を中心に準備が進められており、いずれ関係各方面に詳細が伝えられる。

天台学国際会議

今秋10月9日より同月11日まで、パリのコレージュ・ド・フランス、ユゴー会館(Fondation Hugot)において初めての天台学に関する国際会議が開催される。この会議は、天台宗の会議ではなく天台学・仏教学研究者の国際会議として、フランス・イタリア・アメリカ・スイスと日本から20名の研究者が招待される。ただし、招待参加以外の私的参加もできる。

会議は、教理と天台法儀・聲明の唱演(ソルボンヌ礼拝堂)の二部からなる。12日には、モン・サン・ミッシェルの遊覧も予定されている。主催者はベルナール・フランク教授、事務局長はJ=N・ロベール教授、日本側連絡事務は大正大学天台学研究室(利根川氏)もしくは福井文雅早大教授。一般からの参加を歓迎するとの由。

新日仏会館落成

かねて建築中の新日仏会館は、3月に落成し4月上旬に移転を完了する予定。既報の通り、新会館5階は関連学会の専用スペースとなる。大(140名)、中(90名)、小(40名)の会議室を備え、学会事務のためのスペースも整えられる。現在、本学会は早稲田大学福井

研究室に本部を置いているが、状況によって、将来、新会館内に移すことも可能である。

◎新会館の概要

1階：多目的ホール(170名)

2階：正面入口 レストラン

3階：図書室

4階：日本事務所 役員室

5階：関連学会共同スペース 会議室

日仏協会

6階：フランス事務所

招聘研究員研究室

7階：学長スペース

所在地：〒150 渋谷区恵比寿3-9-25

(JR山手線・営団地下鉄日比谷線

いずれも恵比寿駅下車、目黒方

面出口：ウェスティンシティ・

エビスビル本社前)

日仏会館関連学会 連絡協議会

本年度後期の日仏会館関連学会連絡協議会が去る12月5日午後6時より、お茶の水の日仏会館会議室において開催された。今回から関連学会が一つ増え(日仏女性関係学会)、全部で25学会が現状と活動報告を行なった。本学会からは、会長の委嘱を受けて山田利明と田中文雄評議員が出席した。日仏会館からの報告は、1)日仏学者交換(哲学会・農学会・地理学会・獣医学会=招聘、海洋学会=派遣)、2)共同研究(教育学会・医学会)、3)文化講演会、4)渋沢・クローデル賞、5)今秋開催の日仏コロックについての諸状況。

編集後記

- 巻頭に「兵庫県南部地震お見舞い」を急遽載せることができた。日をおって、どなたがどのような被害を受けられたのかが少しづつ伝えられるものと思われるが、いまはただ、会員の皆様と御家族の御無事を祈るより術は無い。
- 今回から編集担当が変わった。不馴れな仕事のため遅れに遅れてようやくここまで来た。原稿を頂いたマセさんや、資料をお送り頂いた中谷・御牧両評議員、興膳代表幹事には厚くお礼申し上げたい。マセさんの原稿は、坂出評議員の幹旋によるものである。中国の科学技術史についての最新の情報といってよい。今後も、東洋学の諸分野についてのこうした情報を掲載したい。
- 「消息」その他について当方で把握できる情報には限りがあります。是非御一報下さい。「新刊紹介」・「書評」などの投稿を歓迎致します。

(山田利明記)

投稿規定

会員諸氏からの投稿を募ります。
できればMacintoshを用い、以下の設定で入力したフロッピー及び打ち出し原稿をお送りください。他のワープロもしくはパソコンをお使いの際は、テキストファイルに落とした上でお送りいただければ結構です。その際、文字飾り、罫線などのご使用にならないよう、また、スペースも行頭以外にはお使いにならぬよう、ご注意いただければ幸いです。

用紙サイズ : A4
上端マージン : 23
下端マージン : 27
左端マージン : 32
右端マージン : 90

尚、手書き原稿は、当方で入力致します。

日仏東洋学会 **通信** 第19号
1995年2月28日

編集 日仏東洋学会

発行者 福井 文雅

〒162 東京都新宿区戸山1-28-1 早稲田大学
文学部 福井文雅研究室 Tel:03-3203-4141
Ext.2482

発行所 〒606 京都市左京区吉田本町 京都大学文学部
興膳 宏研究室 Tel:075-753-2808
FAX 075-781-0882(京都大学文学部)

印刷所 六菱舎 〒530大阪市北区浪花町9-12-402
Tel:06-371-1681
